

正直に生きる

城北中学校 三年 中村 愛依

正直に生きるというのは、そんな簡単にできることではない。正直に生きたいと思っただけでも、プライドや不安、恥ずかしい気持ちがそれを邪魔する。それに、自分の感情に正直に生きたとき、その先に待っているのは必ずしもいいことばかりとは限らない。なぜなら、「正直」でいることは「自己中心的」になることと紙一重だからだ。やりたくないことをやらないことも、嫌なことに向き合わないことも正直。でもその一方で、楽しい事や自分の意見をしまい込まずに言うことだって、正直といえる。このように、正直にはいろいろな形があつて、何に正直になるのかは自分でしか決められない。だから、一見いいことのように見えた「正直」は、時に人も嫌な気持ちにさせてしまう場面がある。

ある友達同士が喧嘩していた。周りが片方の人に共感している中、その話ではどちらにも悪いところがあると感じた。だから素直に「どっちにも悪いところがあるよね？」と伝えたところ、友達に嫌な顔をさせてしまった。自分の考えをまっすぐ伝えるというのは、必ずしも良い方向につながらないのだと知った。また、テスト対策の勉強をしなければいけないのに、やりたくないというありのままの気持ちに流され、ダラダラと過ごしていた。その結果、テストの点数が思うように取れず、あとになってから後悔することになった。自分の本音に従うことで、その一瞬は快適な気持ちで過ごせる。でもただ従っていても、将来の自分にはつながらないことを思い知った。だからこそ、「正直である」ことは大切だけれど、それだけでは自分も相手も損をしてしまう。相手のことや自分の将来のことと一緒に考えながら、正直になる必要があると思う。その一方で、自分にも、相手にも素直になって良かったと思う場面もある。

私にはしてみたい髪型があつた。でもそれは私には似合わないようで、なかなか手を出せずにいた。もしやって誰かに笑われたらどうしよう、外に出て変な目で見られたらどうしよう。そんな不安や恥じらいの気持ちでいっぱいだった。そのことを友達に相談してみると、「似合うと思うよ」「やってみようよ」と背中を押してくれた。勇気を出し、思い切って挑戦してみると、似合つてると言ってくれた。正直に伝えることで、新しい事の経験ができ、知らなかった自分を知る機会になることを学んだ。また、進路に悩んでいたときに、自分一人で考え込まず、親や先生に正直に打ち明けた。すると、一緒に考えてくれ、自分では気づけな

った選択肢や考えを教えてくれた。「正直」になることで、周りの人とのつながりが強くなることもあるのだと知った。知らないプライドをなくし、偽ることなく伝える。そうすることで、自分だけでは気づけなかった何かに気づくことができるかもしれない。

このように、ありのままの気持ちで人と関わると、良い方にも悪い方にもつながってしまう。だから、「正直に生きること」は怖い。けれど、正直になることでしか新しいことに気づけないと私は思う。悪い方向に行くことを恐れ、意見や迷いを心の中に閉じ込めることは簡単だ。でもそうやって自分を偽って生きるのは、成長につながるだろうか。私にとって「正直」は、自分自身を偽らないことだ。相手を偽つてたくないのも、嫌われたくないのも私。思ってもいないことに共感したくないのも私。いろんな私を見つけて、受け止める。時に悩み後悔してしまうかもしれない。それでも私は、私を偽らずに生きていきたいと思う。

あなたにとって「正直」とは何ですか？